

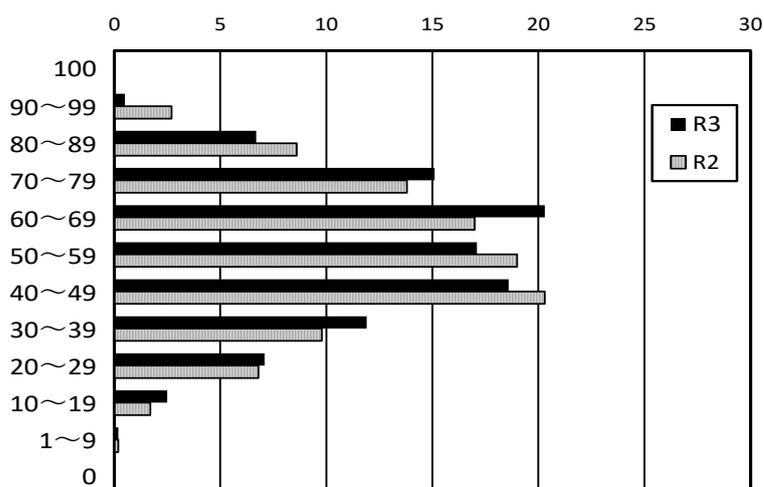
社 会

1 得点分布及び大問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	割合	R3 %	R2 %
100		0.0	0.0
90～99		0.5	2.7
80～89		6.7	8.6
70～79		15.1	13.8
60～69		20.3	17.0
50～59		17.1	19.0
40～49		18.6	20.3
30～39		11.9	9.8
20～29		7.1	6.8
10～19		2.5	1.7
1～9		0.2	0.2
0		0.0	0.0

〈グラフ〉得点分布



*合格者の中から、無作為に抽出した630人(15.5%)の結果である。

〈表2〉大問別の正答率の経年比較

大問	主な内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
①	地理的分野	62.3	60.5	69.9	70.2	60.4
②	歴史的分野	52.2	61.7	54.7	44.2	47.4
③	公民的分野	45.6	55.0	56.2	54.8	54.1
④	分野融合	45.3	50.8	48.3	50.0	57.5

2 分析結果の概要

合格者の社会の平均点^(※)は、52.7点で昨年度と比べ下降した(昨年度53.3点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,055人のものである。

〈表1〉に関して、60点台の人数が全体の20.3%で最も多い(昨年度は、40点台で20.3%)。70点以上の人数は全体の22.2%で昨年度に比べ減少した(昨年度25.1%)。40点未満の人数は全体の21.7%で昨年度に比べ増加した(昨年度18.6%)。

〈表2〉について、分野別の正答率は①地理的分野の問題が最も高かった。昨年度との比較では、①地理的分野と③公民的分野が低くなり、②歴史的分野と④分野融合は高くなった。

「3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい、正答率」について、正答率80%以上の問題数は8問で、昨年度に比べ増加した(昨年度7問)。資料を用いて基礎的・基本的な知識・理解を問う問題の正答率が高かった(①の1(1)、2(5)ア、②の1(1)、2(2)Y、③の1(1)、(2)、2(4)、④の1イ)。正答率40%未満の問題数は12問で、昨年度と同じであった(昨年度12問)。特に、歴史的分野や公民的分野の、資料を基に考察して説明する問題の正答率が低かった(②の1(4)イ、③の1(4)ウ、2(5)ア)。また、公民的分野の、基礎的・基本的な知識・理解を記述する問題の正答率が低かった(③の2(1)(2))。

3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい、正答率

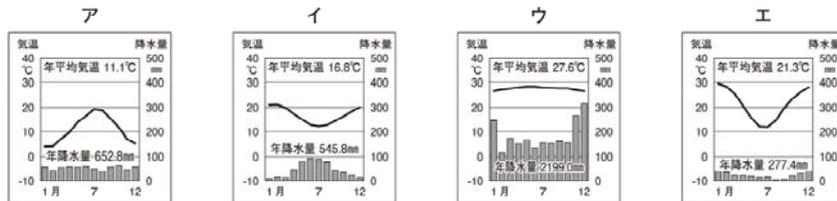
大問	小問	学年・領域	出題内容・ねらい	正答率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	1	地理的分野	(1) 世界における米の生産の盛んな地域について理解している。	91.6											
			(2) ケープタウンの気候の特色について、地図と資料を基に考察し、判断することができる。	20.3											
			(3) 世界の主な国々における輸出品から貿易の特色について理解している。	54.6											
			(4) アフリカ大陸周辺のさんご礁の分布の違いについて、緯度や海流を基に考察し、説明することができる。	74.9											
	2		(1) 日本の地域構成について、地域区分を理解している。	73.0											
			(2) 茨城県の自然環境について理解しており、適切な内容を判断することができる。	58.9											
			(3) 資料から4道県の気候の特色を読み取り、適切な内容を判断することができる。	71.7											
			(4) 東北地方への工場進出の地理的条件について、資料を基に考察し、説明することができる。	43.8											
			(5) 日本における都市圏の成立や都市と地方の結び付きについて、資料を基に考察し、説明することができる。	ア92.1 イ53.8											
			2	1	歴史的分野	(1) 聖徳太子と法隆寺の関係について理解している。	95.6								
(2) 元寇とその当時の日本の対応について理解している。	52.4														
(3) 資料から各時代の特色を読み取り、時代の流れを判断することができる。	54.1														
(4) 豊臣秀吉のキリスト教への対応と信者数の増加の関係について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア67.5 イ12.7														
(5) 鑑真をまねいた目的とその当時の新羅との関係について、資料を関連付けて考察し、説明することができる。	ウ32.3 エ35.6														
2	(1) 元禄文化について理解している。	47.1													
	(2) 第二次世界大戦後の日本の経済状況と世界の動きとの関連について理解している。	X36.7 Y84.8													
	(3) 江戸幕府の主な政治改革の相違点や共通点について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア45.2 イ36.8													
	(4) 立憲制国家の成立の意義や、アジアにおける英露の対立について、資料を基に考察し、説明することができる。	ウ27.9 エ42.0													
	3	1		公民的分野		(1) 議院内閣制について理解している。	87.1								
(2) 最高裁判所の役割について理解している。			86.8												
(3) インターネット利用のルールについて、多角的な立場から考察し、その根拠となる資料を説明することができる。			ア74.8 イ47.1												
(4) ネーミングライツ制度がもたらす地方財政面での利点や地域活性化について、資料を基に考察し、説明することができる。			ウ28.8 エ48.2												
2		(1) 社会資本について理解している。	19.8												
		(2) 国際連合の主要な組織について理解している。	34.2												
		(3) 大企業と中小企業の特徴について理解している。	65.1												
		(4) ワーク・ライフ・バランスの考え方を理解し、多様な働き方について、資料を基に考察し、説明することができる。	86.0												
		(5) 日本の社会保障の充実と、これからの目指すべき方向について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア7.1 イ48.1												
		4	1		分野融合	地理的分野におけるフェアトレードについて、資料を基に日本とイギリスを比較し、説明することができる。	ア69.4 イ89.0								
2	歴史的分野における富岡製糸場の役割、公民的分野における伝統と文化の継承について、資料を基に考察し、説明することができる。		ア40.5 イ43.9												
3	認証ラベルの役割について、地理的分野と公民的分野を関連させながら、資料を基に考察し、説明することができる。		ア79.4 イ38.3												

4 特徴的な問題

1 地理的分野



1 (2) 三恵さんは、資料1の下線部**b**について、ケープタウンの気候を調べ、雨温図を作成しました。ケープタウンの雨温図を、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。



(2019年版「理科年表」他より作成)

<標準解答>
イ

<ねらい>

この問題は、南半球に位置するケープタウンの気候の特色について、地図と資料を基に考察し、適切な雨温図を選択する問題である。

<分析>

正答率は、20.3%であった。課題としては、赤道や北半球・南半球の意味を理解し、地図を活用して地球を大まかにとらえることや気候などの自然環境に関する特色を地図から読み取ることができていないことなどが考えられる。

<提案>

授業では、地理的事象がなぜこの地域に見られるのか、既存の地図から読み取ったり、地図を通して追究したりとらえたりする技能を育成していくなどの工夫も必要である。

2 歴史的分野

1 (3) 直樹さんは、新たに資料Eを作成しました。資料A～Eを、年代の古い順に並べたものとして最も適切なものを、下のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

資料A 聖徳太子 (厩戸皇子)

中国を統一した隋の進んだ制度や文化を取り入れようと、小野妹子らを派遣した。



(伝 聖徳太子像)

資料B フビライ=ハン

朝鮮半島の高麗を従え、さらに日本を従えようと、使者を送ってきた。



資料C 豊臣秀吉

キリスト教が国内統一のさまたげになると考え、宣教師の国外追放を命じた。



資料D 鑑真

日本にわたろうとして何度も遭難したが、遣唐使にともなわれて来日した。



資料E 平清盛

中国との貿易の利益に目をつけ、瀬戸内海の航路を整え、兵庫(神戸市)の港を整備した。



- ア A → B → D → E → C
 イ A → B → E → D → C
 ウ A → D → B → E → C
 エ A → D → E → B → C

<標準解答>
エ

<ねらい>

この問題は、日本と海外との関わりについて、資料から各時代の特色を読み取り、年代の古い順に並べ替える問題である。

<分析>

正答率は54.1%であった。課題としては、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解できていないことなどが考えられる。

<提案>

授業では、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせることで、歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させるなどの工夫も必要である。

2 歴史的分野

2 (4) 正美さんは、カードDの下線部の戦争の直前に、日本とイギリスとの間で条約改正がなされた理由について興味をもち、資料4、5、6を見つけ、下のようによまめました。資料4、5、6を関連づけて、**ウ**、**エ**に入る適切な内容を書きなさい。

資料4 岩倉使節団 (1871~1873)



- 主な目的
欧米諸国との不平等条約の改正交渉
- 結果
交渉は不成功
欧米の政治や産業、社会を視察して帰国

資料5 19世紀後半における日本に関する資料 (一部)

年	主なできごと
1885	内閣制度ができる
1889	大日本帝国憲法が公布される
1890	第一回帝國議会議が開会される

資料6 1890年代の日本と周辺諸国 (一部)



南に領土を広げたいロシアは、清に進出したイギリスと対立を深めていた。

正美さんのまとめ (一部)

日本とイギリスとの間で条約改正がなされたのは、資料4、5から、日本が**ウ**を整えたことを受けて、資料6から、**エ**が必要であったイギリスが、日本の協力を得るために交渉に応じたからだと考えられる。

<標準解答>

- ウ(例)** 立憲制国家のしくみ
- エ(例)** ロシアの南下に対抗する

<ねらい>

この問題は、立憲制国家の成立の意義や、アジアにおけるイギリスとロシアの対立について、資料を基に考察し、説明する問題である。

<分析>

正答率は**ウ**が27.9%、**エ**が42.0%であった。課題としては、大日本帝国憲法の制定や議会政治の始まりなどの具体的事象について考察し、その歴史上の意義や我が国の国際的地位の向上に与えた影響を十分理解できていないことなどが考えられる。

<提案>

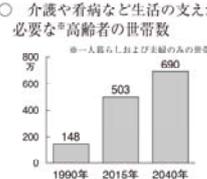
授業では、歴史的事象の意味・意義や事象間の関連などを生徒が説明したり追究したりする活動を重視することで、思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学習内容のより確かな理解と定着を図るなどの工夫も必要である。

3 公民的分野

2(5) 真一さんは、下線部eに関して、資料5、6、7を見つけ、日本の社会保障の在り方について、下のよう発表原稿にまとめました。資料5、6、7をもとに、**ア**、**イ**に入る適切な内容を書きなさい。

資料5 高齢社会に関する資料

○ 介護や看病など生活の支えが必要な[※]高齢者の世帯数



※一人暮らしおよび夫婦のみの世帯数

年	世帯数
1990年	148
2015年	503
2040年(推計)	690

○ 一般世帯総数に占める高齢者の一人暮らしの割合

年	割合
2015年	11.1%
2040年(推計)	17.7%

(『令和2年高齢者生活調査』より作成)

資料6 社会保障の考え方について (一部)

私たちの人生には、重い病気になる、失業する、高齢によって介護が必要になるなど、生活が困難になるさまざまなリスク(望ましくないことが起こる可能性)が潜んでいる。

このような生活上のリスクに、世代をこえて社会全体で対応するしくみが社会保障制度である。

(『厚生労働省ホームページ』監より作成)

真一さんの発表原稿 (一部)

資料5、6から、生活上のリスクを抱える高齢者の増加が予想されるため、社会全体で対応する社会保障制度のいっそうの充実が求められます。同時に、公的な制度に加えて、必要のようなリスクに対しては**ア**ことや、資料7の地域活動のように、**イ**ことを大切に、すべての人が安心して暮らせる社会づくりを考えていく必要があると思います。

<標準解答>

- ア(例)** 自ら将来に備える
- イ(例)** 社会全体で助け合う

資料7 地域住民による活動 (一部)

- 一人暮らしの高齢者への声かけや見守り活動
- 豊富な経験のある高齢者による地域の子育て支援



<ねらい>

この問題は、日本の社会保障の充実と、これからの福祉社会の目指すべき方向について、複数の資料を基に考察し、説明する問題である。

<分析>

正答率は、**ア**が7.1%、**イ**が48.1%であった。課題としては、少子高齢社会における社会保障の問題をどのように解決していったらよいか、税の負担者として自分の将来とかわからせてとらえられていないことなどが考えられる。

<提案>

授業では、現代の社会的な事象を単なる語句としてではなく、概念として習得させることが必要である。また、基礎的・基本的な知識の確実な定着に加えて、現代社会の諸課題について具体的・体験的事例を積極的に取り上げて、生徒に発表させたり、考察させたりするなどの工夫も必要である。